

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

『彼の受けた懲らしめによって わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって わたしたちは癒された。』

2017年1月23日発行 No.29

(旧約聖書 イザヤ書 第53編5節)

<新しい出会いと学び、そして神の導きを願いながら…。留学セミナー壮行式を挙行!!>

先週木曜日の夕方、チャペルではこの春休みに短期留学をする学生に向けての壮行礼拝が行われました!! 御自身も長く留学を経験されてきた下村学長の奨励では、「たとえ言葉や文化が違っても、同じ人間として多くの有意義な出会いを経験して欲しい」という力強く、また出発を前にして様々な不安を抱える学生にとって勇気づけられるメッセージが贈られました。

テロや紛争等で不安定な世界情勢の中、海外に旅行する人の数も減少している状況の中、「国際」を掲げるKIUからこのようにして多くの学生たちが世界に羽ばたいていく様は、本当に心強く感じます!! ぜひ皆さんの歩みを導かれる神様が、有意義な学びの時間を備えて下さいます様、心からお祈りしています!!!



出会う喜びを語る下村学長



礼拝後の打ち合わせも楽しそう

<キリスト教センターから超おススメの映画を紹介!! 遠藤周作原作の「沈黙」が映像化!!>

先週から、キリスト教を題材にした映画が上映されています。ニュース等でも取り上げられていたので、もうご存知の方もいると思いますが、遠藤周作原作の「沈黙～サイレンス～」です!! 17世紀江戸初期。激しいキリシタン弾圧の中で棄教したとされる師・フェレイラの真実を確かめるため、日本を目指す若き宣教師ロドリゴとガルベ。立ち寄ったマカオで出会った日本人キチジローの案内で五島列島に入るが、やがて長崎奉行所に追われる身に。激しい弾圧を受けながら、ロドリゴは神と信仰の意義と命題に向き合っていく…。「タクシードライバー」や「グッドフェローズ」、またマイケル・ジャクソン「BAD」の映像も作成したマーティン・スコセッシ監督が20年以上の構想を経て映画化した作品で、激しい弾圧の中で人間にとって本当に大切なものとは何かを、壮大な映像で描いています!! 日本人の出演者も窪塚洋介、浅野忠信、イッセー尾形、加瀬亮ら実力&個性派が集結しています。KIUの土台である「仕える」生きを見つめ直すためにも、皆さん、ぜひ劇場へGO!!



全国約450館で絶賛上映中!!必見!!

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

1月16日(月) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「あなたの受けた痛みによって」

大学時代に経験した阪神・淡路大震災。この震災で多くの命が奪われ、神戸の街も壊滅的な被害を受けたが、その後に起こった新潟の地震や3・11の時に神戸から多く支援者が被災地に駆けつけている様子を見た時、失ったものを通して確かに得たもの(これこそキリスト教の主題テーマ)があり、それを通して神戸は変わった…と感じた。あれから22年。災害によって引き起こされた大きな痛みと苦しみ、しかしそこから繋がる力と相手の痛みを自分の痛みと感じる優しさとセンスの上に、神戸という町は立っている。同時に、私たちが集う神戸国際大学も、そのような神戸、そしてキリスト教という土台の上に建つ。その使命を覚えつつ、1・17を迎えたい。

1月17日(火) ※この日は、2017年初めての音楽礼拝。特に、発生から22年を迎えた阪神・淡路大震災を覚えての礼拝を行い、50人近い出席者と共に追悼の祈りを奉げました。

1月18日(水) 利川 満(教学センター長) テーマ:「言葉と思考」

マザー・テレサの有名な言葉を紹介したい。「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。」日本にも言霊という表現があるが、発した言葉に力が宿ると考えられていた。皆さんはどうだろうか? 人の悪口や不平不満、非難や中傷を言っていないだろうか? 心の中に恐れや不満が渦巻いていないだろうか? 人の脳は、大量の情報を受け取っているが、それらを「思い込み」というフィルターで処理し理解できる量にまで削減するそうだ。つまり「思考」が、「こうありたい」という思いがその人の世界を作り出すのだ。

1月19日(木) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「儀式の持つ見えない力」

先週末、突然の訃報を受け通夜式に出席した。家族葬として行われた式に牧師や僧侶の姿は無く、内容は御焼香と手紙の朗読だけだった。今この日本では、葬儀の形がどんどん変化している。大都市では1日に多数の葬儀が行われる為に式自体の短縮化が起こっている。墓を放置する家庭が増えているが、逆にビル等でお墓を一括管理するお寺も出てきた。地方では独居の高齢者が増え、葬式もしないケースがあるという。人間は昔から神や仏、霊や魂といった見えない概念を大切にし、そのために時間や資源、そして労力を割いてきた。そこには「命」への想いが存在し、それが「儀式」となって人間の文化を形作ってきた。時代の流れは速く、便利になっていくが、それに伴って私たちが大切にしてきたものまでもが、簡素化・合理化されていく様に、本当の幸せや豊かさは存在するのだろうか?

1月20日(金) 中原 康貴(チャプレン) テーマ:「喜びを選ぶ」

今日の聖句「いつも喜んでいなさい。たえず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい」は有名だが、「いつも喜び」事は決して簡単ではない。これらは本当に可能なのか? 昔の霊的指導者は「喜びは、やって来るものではなく、選び取るものだ」と言ったが、そう言われても、「成功者は恵まれている。自分には運も才能もない。」と思う人も多いだろう。確かに自分の境遇や生まれた環境は、自力でどうする事もできない。しかし、どんな境遇でも一つひとつの事柄にどのようにして対処していくかは私たち次第だ。同じ課題を抱えても、それを恨むか、感謝するかで結果は大きく違ってくる。人生のあらゆる時に「憎しみではなく、喜びを選び取る機会がある」事に気付き、そして喜びを選び取るには、感謝する習慣が求められる。神は皆の悲しみではなく、喜びを求めておられる。最終的に喜びに繋がる道を用意して下さっている。(文責:野間 光顕)